

駅ホームの更なる安全性向上に向けた取組みについて

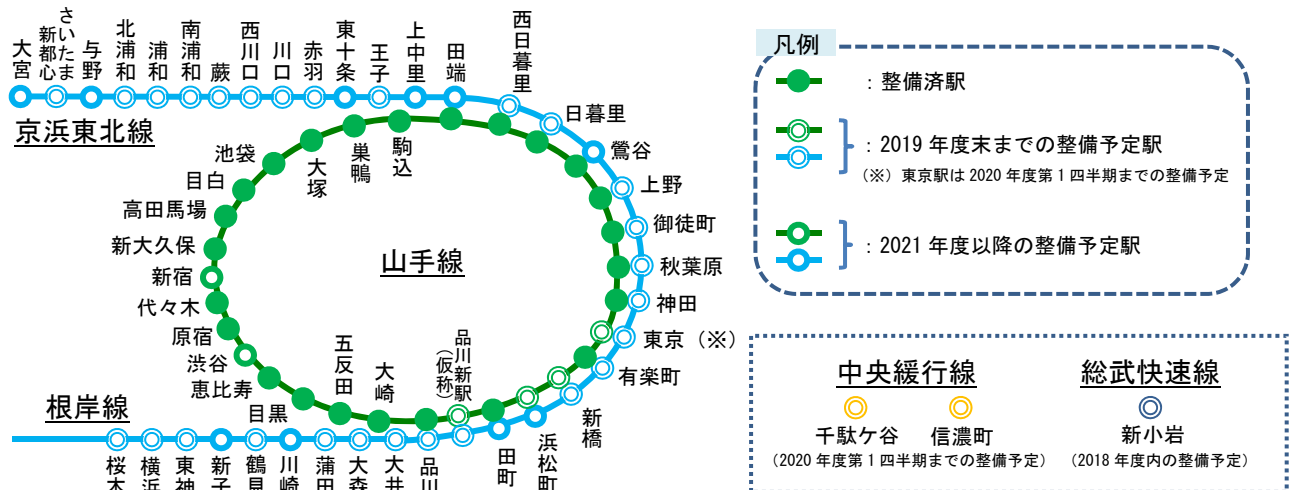
JR東日本では、お客さまの列車との接触や線路への転落を防止する対策として、山手線や京浜東北・根岸線等へのホームドア導入や、内方線付き点状ブロックの整備を進めてきました。

駅ホームの更なる安全性向上に向け、ホームドア整備時期の前倒し等の対策を進めていくこととしましたので、お知らせいたします。

1. ホームドア整備時期の前倒し

2020年度末までに山手線4駅、京浜東北・根岸線27駅、総武快速線新小岩駅及び中央緩行線千駄ヶ谷・信濃町駅の計34駅にホームドアを整備する計画で進めておりましたが、この度、計画の見直しを行い、整備時期を前倒しすることといたしました。

具体的には、京浜東北線蕨駅を含め2020年度末までに整備予定としていた34駅のうち30駅について、施工計画の見直しや工事着手時期の前倒し等により、2019年度末までの整備完了を目指してまいります。



また、現在、横浜線町田駅で試行している「スマートホームドア®」につきましては、実用化を目指した検証作業を進めてまいります。

※「スマートホームドア®」は、JR東日本メカトロニクス㈱の登録商標です。



スマートホームドア® (横浜線町田駅)

2. CPライン（※）の整備拡大

CPラインについては、これまでに10駅（渋谷駅、蒲田駅、横浜駅、町田駅、長津田駅、大宮駅、武蔵浦和駅、吉祥寺駅、国分寺駅、佐貫駅）に整備しているところですが、2017年3月末までに、蕨駅のほか、4駅（池袋駅、四ツ谷駅、武蔵小杉駅、鎌倉駅）にも整備を進め、引き続き設置効果等の確認を進めてまいります。

CPライン（※）：CPとは、「Color Psychology（色彩心理）」の略で、人が危険と感じる度合いが高い色彩を用いてラインを引くことにより、視覚的・心理的にホーム端部の危険性に対して注意喚起を行うものです。



CPライン施工例

3. 目の不自由なお客さまへの対応

（1）ガードマンの増配置

目の不自由なお客さまへのお声かけや案内誘導、乗車するまでの見守りをさらに充実させることを目的として、ホームドアが設置されておらず、お客さまのご利用が多い駅を中心に2017年2月中をめどに、34駅へガードマンを増配置します。

（2）「声かけ・サポート」運動強化キャンペーン期間の延長

付き添いがいらっしやらない目の不自由なお客さまや、お困りのお客さまに対してお声かけを行う「声かけ・サポート」運動に、全社員で取り組んでいます。2016年11月25日から2017年1月20日を強化キャンペーン期間として、首都圏の鉄道事業者と連携して取り組んでまいりましたが、この期間を2017年3月31日まで延長いたしました。

【別紙】

2016年12月13日発表時点

ホームドア整備計画一覧表

2016年12月13日現在

線区	既設駅数	2020年度末までに整備する駅数	2021年度以降に整備する駅数	合計
山手線	24(19)	4(3)	2(2 [*])	30(24)
京浜東北 ・根岸線	0	27(24)	10(4 [*])	37(28)
その他	0	3(1)	今後計画を策定する	3(1)
合計		58(47)	12(6)	70(53)

()内は乗降10万人以上駅の駅数

※山手線2駅(新宿、渋谷)、京浜東北線4駅(大宮、浜松町、田町、川崎)については、駅改良工事等に合わせ整備する。



今回

ホームドア整備計画一覧表

2017年2月1日現在

線区	既設駅数	2019年度末までに整備する駅数	2020年度第1四半期までに整備する駅数	2021年度以降に整備する駅数	合計
山手線	24(19)	3(2)	1(1)	2(2 [*])	30(24)
京浜東北 ・根岸線	0	26(23)	1(1)	10(4 [*])	37(28)
その他	0	1(1)	2(0)	今後計画を策定する	3(1)
合計		58(47)		12(6)	70(53)

()内は乗降10万人以上駅の駅数

※山手線2駅(新宿、渋谷)、京浜東北線4駅(大宮、浜松町、田町、川崎)については、駅改良工事等に合わせ整備する。